

令和4年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月15日実施)	総合評価（3月31日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒の課題発見能力や問題解決能力を育み、主体的に学ぶ意欲を高めるため組織的かつ持続的な授業改善に取り組むとともに、専門性の向上を図る教育に重点を置いた教育課程の編成をめざす。</p> <p>②学校行事や生徒会活動等を充実させ、生徒の主体的な行動の促進を図る。</p>	<p>①ICT利活用を主題とした組織的な授業改善を更に進め、生徒が主体的に学ぶ意欲を高めるとともに、専門性の向上を図る教育に重点を置いた教育課程編成の検証をする。</p> <p>②生徒会を中心とした生徒の主体的な活動を支援し、学校行事の充実を図る。</p>	<p>①日常的な授業見学、年2回の研究授業を継続し、ICTの効果的な活用による授業改善を更に進める。また、新教育課程の生徒が入学し、新カリキュラムの検討を続ける。</p> <p>②体育祭、文化祭、球技大会において安全を第一に運営し、生徒が最大限活動できるよう支援する。</p>	<p>①ICT利活用による授業を実施し、年2回の研究授業・公開授業を行うことができたか。研究協議により、授業改善を進めることができたか。また授業評価の分析や教科ごとの研究協議を行うことができたか。</p> <p>②アンケート等を実施し、生徒の大半が学校行事について満足であるという回答を得ることができたか。</p>	<p>①年2回の公開授業期間を設け、各教科にて授業見学や研究授業・協議を行った。生徒による授業評価の結果を分析しより良い授業づくりを進めた。また、一人一台端末やインタラクティブ電子黒板を活用し、多くの職員がICTの利活用に取り組むことができた。</p> <p>②コロナ禍での体育祭応援ダンスや文化祭一般入場制限緩和について、情勢を鑑みつつ生徒の意見を取り入れ実施したことで、生徒が主体的に活動し満足することができた。</p>	<p>①効果的な授業改善方法の検討や実施の工夫、環境を整える必要がある。継続して組織的な授業改善に取り組む。</p> <p>②学校行事の制限がまだまだ続く中、体育祭での活気ある声援や接触が伴う種目の実施、そして文化祭での調理販売活動など、コロナ以前の賑わいがこの3年間実施できていないので、生徒の気持ちを汲み取り少しずつでも取り戻す努力を継続し、来年度以降さらにより満足いく学校行事となるよう改善していきたい。</p>	<p>①小学校でもICTの利活用が進んでいて、タイピング技術も上がってきている。そういう児童が高校生になっていくことを踏まえて教育内容を検討していきたい。</p> <p>②コロナも落ち着きつつあり、学校行事等も戻ってきている。特に学校行事については、地域も参加できることを期待している。</p>	<p>①組織的な授業改善への取組の成果が生徒による授業評価の結果に現れてきている。一人一台端末の活用による個々の学びの充実に向けて、さらに効果的な活用方法について検討を進めたい。</p> <p>②これまでの学校行事のやり方に感染症対策を考慮して、安全な学校行事を実施することができた。さらに生徒主体の学校行事に取り組んでいきたい。</p>	<p>①生徒の学びを深めるため一人一台端末を活用する方法をさらに模索し、研修会等により学校全体で共有することを通して、授業改善していく。</p> <p>②新学習指導要領完成年度に向けて、カリキュラムの精選、時間割作成の準備を進める。</p> <p>②生徒会を中心とした生徒主体の行事の本格的な実施に向けて、支援の体制を整える。</p>
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	<p>①安心・安全な学校生活を送るための支援体制、指導体制を確立し、豊かな人間性や社会性を備えた人材を育成する。</p> <p>②専門学科の特性に由来する部活動を含め、教育活動における部活動の取組を支援する。</p>	<p>①登下校中の交通安全も含めた安全・安心な学校生活、あるいは専門高校生として望ましい生活態度や身だしなみに関する指導を行う。</p> <p>②専門的知識・技術を指導するとともに、生徒理解を深め、生徒が充実した部活動を行うことができるよう支援する。</p>	<p>①定期的な交通安全指導や身だしなみ指導、あるいは各種講話が効果的であったか。</p> <p>②支援により部活動加入率の維持および部活動を継続する生徒数を維持できたか。</p>	<p>①交通安全指導や身だしなみ指導、あるいは各種講話が効果的であったか。</p> <p>②支援により部活動加入率の維持および部活動を継続する生徒数を維持できたか。</p>	<p>①学校周辺で自転車等の交通安全指導を定期的実施し、通学時の交通マナー順守と交通安全の推進に努めた。また、月1～2回の昇降口指導等により、生徒の身だしなみについての意識を向上させた。</p> <p>②文化部204名の加入は前年度と同数であるが、運動部は172名の増となった。顧問やインストラクターによる専門的な指導が実施できている部が多く、今後も部活動活性化の支援を行っていきたい。</p>	<p>①学校周辺で自転車等の交通安全指導と通学路使用の徹底とさらなる通学時の交通マナー順守に努める。</p> <p>②部員数増加により、活動の場所や物品の支援をさらに充実していくことが必要であるとともに、専門的に指導できる顧問やインストラクターがいない部活動を支援することが課題であり、地域からの協力を得ながら改善していきたい。</p>	<p>①相模原は自転車の事故の多い地域ということだが、4月からヘルメット着用が努力義務となることから、ヘルメットの着用を含めて交通安全指導が必要となる。</p> <p>工業団地を通らないよう通学路を定めるとのことだが、安全のためには、通学路指導はとても大切である。</p>	<p>①交通安全指導、身だしなみ指導など生徒の学校生活に関わる指導を実施し、啓発に努めた。交通事故防止に向けて取り組んでいきたい。</p> <p>②部活動への加入人数も増加や新たな部活動の創設など、部活動が活性化して生きている。各部活動の活動場所の確保、調整を進め、さらに活動の支援を進めていきたい。</p>	<p>①交通事故ゼロを目指し、教職員、保護者、生徒、外部機関で協働し、啓発活動を行う。</p> <p>また自転車の乗車マナーの向上のための指導を、外部機関の活用を含めて検討する。</p> <p>②部活動の加入率とともに、継続率の維持に向けて、必要に応じて活動の仕方等の見直しを行う。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月15日実施)	総合評価(3月29日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	夢と活力ある産業人材の育成に向けて、専門高等学校の特性を生かし基礎的な知識や技能を体得して、社会的・職業的に自立する人物の育成を図る。	①農商併置校としての特性を生かし、インターンシップや農業体験を通じ知識や技能の体得、進路への活用を目指す。 ②学年毎に適したガイダンス等の実施により進路への意識を向上させ、進学や就職に見合う基礎学力やマナーの定着を図る。	①本校の特性や生徒のキャリアデザインに即した、インターンシップや農業体験を周知し参加を促す。 ②ガイダンスや説明会等を多様な分野で実施するとともに、キャリアパスポートの活用により、生徒の進路意識を向上、視野の拡張を促す。	①就職希望者はインターンシップや校内のガイダンスに参加することができたか。また、農業体験参加生徒にとって、進路選択に有効であったか。 ②進路への意識向上により、進路室の利用が活性化したか。生徒の挨拶やマナーの意識は向上したか。キャリアパスポートは活用できたか。	①インターンシップへの参加を呼び掛け、希望生徒は夏季休業中に参加し、自身の進路に向き合うことができた。3学年就職希望生徒は校内ガイダンスに参加、企業見学を通じ、企業への理解を深め採用選考に臨むことができた。 ②HR教室への進路関係書籍の配置や掲示物により、進路意識の向上が見られ、進路室の利用が活性化した。各学期の始まりと終わりに生徒のキャリアパスポート記入時間を確保し、生徒自身の振り返りに活用した。	①インターンシップへの参加は生徒が自身の進路や適性を考えるための体験となる。来年以降も希望者が参加できるよう体制を整えたい。 ②生徒の進路希望調査の結果や進路指導室の利用状況、更にこれまでに蓄積した資料の整理分析を進め、進路ガイダンスや講話等の実施方法や時期をなど見直し、検討に努めたい。	①進路状況を見ると自分の進路を考えているようだ。貧困家庭が増えており、奨学金についてもあまり理解されておらず、生活費にしている家庭もあることから、計画的に進学することの意味を含めて、生徒自身はもちろん家庭でも考える必要がある。 ②高校入学前に、指定校推薦などの具体的なところがあるといい。	①3学年の就職希望生徒向けのガイダンスを実施し、採用選考に向けた対策を充実させることができた。インターンシップへの参加に向けた体制の整備を図り、生徒の参加を促していきたい。 ②キャリアパスポートへの取組が定着してきている。さらに活用を進めたい。	①インターンシップの意義や効果などを早い段階から丁寧に説明するなど、より多くの生徒が参加することにより、将来のキャリアを考えられるように進める。 ②キャリアパスポートに取り組む意義など生徒の理解を深めさせるとともに、進路活動への具体的な活用について検討を深める。
4	地域等との協働	①地域に根ざした様々な産業との連携を重視した教育に取り組むとともに、産業社会に役立つ産業社会の発展に寄与する人材を育む。 ②地域に信頼される学校づくりを推進する。	①地域社会との連携を図り、専門性をいかして地域に貢献する人材を育成する。 ②地域と協働する場を設け、地域社会と学校が協力できる環境を整備する。	①地域の現状を知るとともに、地域社会に貢献していくための連携事業を行う。 ②本校の取組を地域に発信するとともに、地域社会と協働できる場を活用する。	①地域社会と連携事業を行えたか。 ②地域社会と協働する場を設けることができたか。	①畜産科学科、環境緑地科を中心に隣接する協同病院と動物ふれあいや門松装飾等の連携を進めた。食品科学科が地元小学生への酒饅頭づくり、パンづくり体験を行った。総合ビジネス科では、地元商店街と連携し、商店街の課題について解決策を研究し、提案・実行した。 ②学校説明会、体験入学等で本校の取組を発信するとともに、中学校の進路学習会に参加した。	①本校の特色を生かした事業が行えるようになってきた。地域に必要とされる事業や地域に貢献できる事業を模索し、発展、継続的に行っていきたい。 ②中学生とその保護者に対しての情報発信の場は提供できたが、地域社会に対してどのように情報を発信するのが課題となった。いくつかのメディアに本校の取組が取り上げられ、一層の活用とともに地域社会との協働の場を設けていきたい。	①地域との連携として酒饅頭づくり、パン作り、クリスマスツリーの共同作成、動物とのふれあい体験など大変好評であった。地域からの要望も多いため、地域に貢献できる事業の実施を検討していきたい。 ②様々な方法で情報発信を行うことができた。さらに発信の内容方法を精選したい。	①地域との連携行事が再開できるようになり、実施した行事は大変好評であった。地域からの要望も多いため、地域に貢献できる事業の実施を検討していきたい。 ②様々な方法で情報発信を行うことができた。さらに発信の内容方法を精選したい。	①これまで連携してきた協同病院や商店街との事業を発展させるとともに、新たな協働先を開拓して事業展開につなげられるよう検討する。 ②地域や中学生に向けた情報発信について、ホームページの更新の頻度を高めることが課題である。
5	学校管理 学校運営	①教員の働き方改革を推進するため、組織的な学校運営と校務の効率化を図るとともに、一層の事故防止に努める。 ②教育環境の整備や学校防災の取組により、生徒・保護者・地域との信頼関係を構築する。	①教員のはたらき方改革推進の観点から、各種視聴覚・情報関連の設備や機器が整備され、その利活用に関する研修会等を計画的に実施する。 ②防災備蓄品の整備と災害発生時に対応出来る防災教育を計画し、教育環境の整備等を行う。	①ICT機器の利活用に関する研修会を実施し、全教員が授業等で機器のより有効な活用ができるようになることを目指す。 ②防災備蓄品の整備を行い、職員と情報を共有する。地震と火災を想定した防災訓練を計画し、校内美化に努める。	①ロイノート等の研修会を学期に1回以上実施する。その成果として、クロムブックの貸出件数が月間で100件以上になったか。 ②防災備蓄品の整備と情報共有が図れたか。計画的な防災訓練の実施が出来たか。また、校内美化を推進することが出来たか。	①ロイノートの研修会は1学期に1回実施したのみになっている。クロムブックの教職員への貸出件数は、10月92件、11月117件、12月88件、1月92件であった。生徒への件数を加えると目標を達成したといえる。 ②校内安全管理マニュアルと防災マニュアルを含めた危機管理マニュアルを作成して職員に情報共有を図った。防災訓練も年2回実施した。掃除用品の購入と更新も行い、校内清掃も定期的実施して校内美化を推進した。	①ICT機器の研修会を増やす。教員のリテラシーに大きな幅があるため、研修のレベルの設定が難しい。現状として、クロムブックの貸出件数が示すように、多くの授業でICT機器が利用されている。さらに有効な活用ができるような研修会の実施を検討していきたい。 ②防災備蓄品については、毎年の整備と更新の必要がある。防災計画においても、毎年の見直しが必要であり、特に地域との連携を模索したい。衛生用品や清掃用品など引き続き更新していきたい。	①国はデジタル人材の育成に力を入れている。一人一台端末を活用して、さらにICTの利活用を進めていけるとよい。端末の管理についても整備が必要になる。 ②東日本大震災から12年が経過した。防災意識が薄れないようにしていくことが必要である。	①ICT機器の利活用が教員の働き方改革につながっているかの検証をさらに行い、効果的な活用方法や研修会の開催についてさらに検討を深めたい。 ②防災備蓄品については年度での更新を実施することができた。地域と連携した防災計画の立案が課題である。	①教員のICT利活用能力に応じた研修会の実施により、教員全体のリテラシーの向上と、教材の共有による働き方改革につなげることが課題である。 ②学校運営協議会などを活用し、地域と連携した防災計画を立案する。